

TROMBONE

トロンボーン

黒金寛行 くらがね・ひろゆき



- ◆出身 福島県立磐城高等学校 東京藝術大学
- ◆所属 NHK 交響楽団
- ◆趣味 世界の美酒めぐり
- ◆血液型 O 型
- ◆星座 おうし座
- ◆読者にひとこと 楽しく、いい音楽しよう
- ◆手紙の送り先 BJ 気付

いい音探しを始めよう

こんにちは。しっかり練習していますか？1年生のみんなは、学校や部活に、そしてトロンボーンに慣れてきた頃かな。今月は、質問の多いアンブシュアについて少し考えてみて、それから「キホン」の「キ」、ロングトーンをしてみましょう。

■よいアンブシュアって…？

どんなものだろう。実はコレについて誌面で説明するのってスゴク難しい。ただでさえデリケートな問題だから…。外見だけにこだわらず、自由に演奏できる格好でいられることが大事です。極端な話、鼻で吹いたっていい音出りゃいいんです……ごめんなさい言いききました。でもホントに鼻で上手に吹けるヒトがいたら教えてね。僕も練習してみます。いつか N 響アワーで披露するかもね。

一般的によいアンブシュアといわれるものを紹介します。まず、ちょっとニッコリ微笑んでみて。唇の周りは外側に、同時に内側は中に寄せるようなイメージを持ってみて【図1】。この感覚が掴めると音色のコントロールにも役立ちます。小指の先端を嚙んだくらいに歯を開き、下あごは少し前に出す(猪木にならない程度。軽く上下の歯を揃えるくらい) というのが多いようです。マウスピースは上唇2/3、下唇1/3の当て方の人が一番多いみたい【図2】。

以上のようなことを参考に、自分の一番よい音が出るポイントを探してみよう。人それぞれ骨格の違いがあるし、一概に「コレがイイ」と言い切れないのがアンブシュアの難しいところです。

■よい音のイメージを持つ

そして、もう一つのテーマは「ロングトーン」。みんなは、これからいろんな曲を演奏することになると思うけど、どんなに速いパッセージも、長い音も短い音も、「ロングトーンの組み

合わせ」。「音」そのものが素敵で魅力的であれば、何をやっても素敵で魅力的な演奏になると思うんだ。音色の探求は、ずーっと続くものです。きっと一生ね。一緒に「人を感動させられる音」を目指して頑張ろう。

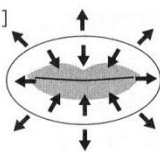
そもそも、「よい音」って何だろう。「柔らかい」「明るい」「伸びのある」など……具体的な言葉にしてイメージすることって大切です。それはどんなイメージにせよ、マウスピースからベルの先まで、無理なく響いている状態を目指しましょう。それから、実際にプロのトロンボーン奏者がどんな音で演奏しているかを「聴く」機会を増やし、頭の中でその音を鳴らせるようになること。素晴らしいプレイヤーの CD が多く発売されているし、近くで演奏会があれば、ぜひ足を運んでほしい。僕も福島で過ごした中学・高校時代は、地元でプロの楽団が来れば必ず聴きに行ったり、学校をサボって仙台や東京の演奏会に行ったり(先生ごめんなしゃい)しました。理想の音をイメージできたら、自分の音を少しでもそれに近づけること。初心者は先輩と一

緒に練習して、少しでも先輩の音に近づけるようにしてみよう。でも慣れてきたら、少しの間でもじっくり自分の音を聴く環境を作ってね。自分で自分の先生になるってことね。

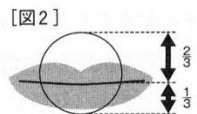
では、楽器でまずは単音のロングトーンをしてみよう【譜例1 a、b】。アタックから音の切りまで、神経使って。自分の出せる一番いい音でね。次に、二つ以上の音を組み合わせさせて【譜例2】。このパターンでは、一番「ラクに出せる音」から始めてみて。その音色に他の音の音色を揃えられるように。二人(以上)で練習するときはタイミングをズラします【譜例3 a、b】。後から入る人は、前の人の音にスッと溶け込むように。一人残ったときに、どちらの音が分からないくらい音色が合うといいね。

上級者は、自分でアレンジを加えて練習しよう。とくに、*cresc. dim.*をつける練習は効果的です。*f*になるにつれて音の密度が増し、*p*に向かって空気に溶け込むようなイメージ。「アタマ」をフルに使って、多くのパターンを考えてみて。ではまた来月!!

【図1】

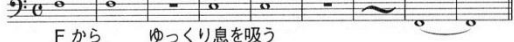


【図2】



【譜例1-a】

♩ = 60 (ゆったりと)

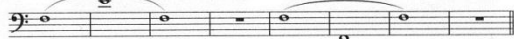
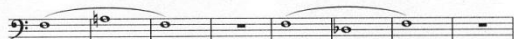
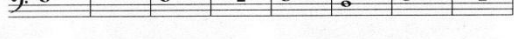
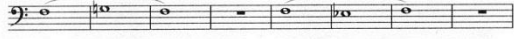
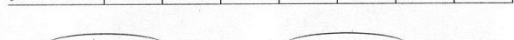


【譜例1-b】

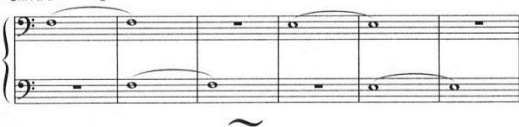


【譜例2】

♩ = 80



【譜例3-a】



【譜例3-b】

